のんびりくつろぐお年寄りたち(福祉会館)

これからは高齢化社会。従来の〝与える、与えられる〟福祉ではなく、個人、地域、市、みんなで役割分担しながら、明るく安心して暮していけるまちにしていくことが望まれます。福生らしい、福生ならではの福祉施策の充実をめざして、市ではさまざまな試みにとりくんでいます。

●いきいきした老後のために

市内の65歳以上のお年寄りの人口は2890人、5.8％で、東京23区の平均より低いものの今後は老齢人口が年々増え、高齢化社会へ突入します。

誰にも訪れる老後、老人問題は市民一人ひとり、みんなが抱える問題です。市では元気なお年寄りが社会参加しながら充実した生活をおくる、寝たきりやひとり暮しの老人が安心して暮せるの両面の施策に力を入れています。

市の老人クラブには21団体、1669人が参加し、地域単位による文化、スポーツ活動が大変盛んです。福祉会館はその拠点で、送迎バス等で毎日大勢のお年寄りが訪れています。

福祉会館2階には54年より高齢者事業団がオープンし、生きがい対策の一環として仕事の指導、斡旋等を行なっています。80歳以上の方11名を含めて318名が登録しており、仕事を通じて仲間づくり、地域奉仕活動に当っています。57年度の受託件数は1363件、契約金にして7612万円ありました。

一方市内在住の寝たきり老人、ひとり暮し老人の数も年々増え、とくにひとり暮しの方が多くなっています。

市ではホームヘルパー3名が、ひとり暮しや寝たきり老人宅を訪ねて日常生活の介助等に当る他、福生市社会福祉協議会との協力で、入浴サービス、老人給食サービス、医師による寝たきり老人健康診査等を行なっています。

ショート・ステイなど、お年寄りを一時預かってくれる施設等の活用にも力を入れています。また主婦を対象に「在宅老人（痴呆老人）介護教室(都主催)」も開かれています。

今後は、地域ボランティアによる福祉システムの輪を広げ、寝たきりやひとり暮しのお年寄りたちの安否の確認、孤独の解消等に地域ぐるみで取りくんでいくことが必要です。

みんなが住みやすく、くつろげるまち

住民福祉の増大

思いきってドロンコ遊び、楽しいね(保育園)

●からだの不自由な人も自由に歩けるまちに

すべての住民が安心して歩けるまち、市民活動や仕事を通じて社会参加できるまちであることが望まれます。

各施設を身体障害の方でも安心して利用できるよう整備の充実に力を入れています。また電車、バス等の交通機関を利用することが困難な人のために「福祉タクシー」制度を設け、タクシー利用料金を市が負担しています。

また、身体障害の方が自立できるよう、技術の習得指導や職業の斡旋等に当っています。

一方、市民のボランティア活動も年々高まっており、手話教室、目の不自由な人たちに朗読奉仕、点字による図書づくりが市民の協力ですすめられています。また、市では目の不自由な人たちに「声の広報」を発行しています。

身障者のためのリフト付きバス

駅前の自転車整理にあたる高齢者事業団の会員

●幼児たち、すくすく育て

児童福祉面では、働くお母さんたちの激増で、幼児の健全育成を担う保育園の仕事が市の重要施策になっています。現在市立保育園2、都立2、私立8園があり、1105人の幼児が通園しています。

女性の職場進出に対応するため、対象児は0歳から就学前児童までと幅広く、また保育時間にも幅を持たせるなど、各園ごとに努力を続けています。市では私立保育園に対して費用の一部を助成しています。また保育施設の近代化や保母さんの充実等に力を入れています。

一方、小学校低学年で両親が共働きの家庭の児童を対象に「学童保育クラブ」を7ヵ所設け、子供たちの放課後の世話、指導に当っています。各クラブとも職員が2人ずつおり、現在274名の子供が所属しています。